

【いこいの森】概要

- ◆ 横手市が昭和51年に地方自治法制定30周年記念として「いこいの森」に着手しました。場所は横手公園の東奥の丘陵です。林道の一部を整備し市民に「自然に親しんでもらおう」というのが主なねらいです。
- ◆ その後、秋田県が平成2年から「生活環境保全林整備事業」として本格的な整備に取り掛り、平成5年春に標識など細かい部分を残しほぼ完成しました。整備総面積は56.7haで総工費4億1千3百万円です。
- ◆ 完成後、横手市に移管され、旧都市計画課と緑の係(現横手地域局産業建設課)が維持管理に当り、さらに整備が進められ、現在「いこいの森」エリアには、舗装散策道(作業管理道路)延べ約3km、散策道延べ約7.4km、樹木約50種で約5千5百本、広場芝生725㎡のほか、山荘2棟、四阿(あずまや)1棟、トイレ2棟、遊具施設、木の橋、ゴミ集積場などの施設があります。
- ◆ この森の中には、樹木などの環境によりさらに「語らいの森」「紅葉の森」などと名付けられた8つの森があります。この森の中にその景観などにより「眺望の道(コース)」「雪椿の道」などと名付けられた13の散歩道(コース)が縦横に走っています。
- ◆ 舗装された散策道(一般車両は通行禁止)以外のほとんどのコースは採石などが敷かれ、急な斜面には丸太などで階段が作られており、雨上りの日でも容易に歩けます。全コースを歩けば約5時間はかかりますが、その日の時間や天候そして体調などに合わせて、さまざまなメニューが作られるのが魅力的です。
- ◆ 名札付きの樹木もあり季節によりいろいろな野草も見られ、自然に親しみ森林浴をしながら手軽にウォーキングができ、「いこいの森」は市民の「生活の活力」です。
- ◆ 平成21年3月、近くに「散策の森」もできました。
- ◆ この森の主な散策道は「山と川のある町を眺める道」として、東北自然歩道「新・奥の細道」の1つのコースになっています。



多くのウォーカーを待つ「展望の丘」



「見晴らし台」からの眺望



錦秋すずむ「紅葉の森」



厳寒と積雪に耐えている「木の散策道橋」



「いこいの森」の象徴「雪椿」の道」



元熊野堂鳥居跡にある「三等三角点(188.9m)」



森の整備に精を出す作業員

「新・奥の細道」の案内板



新奥の細道

コースガイド

- 橋上公園(学校橋)
城下町横手の内町と外町を結ぶ文化のかけ橋で、橋そのものが公園機能をなしている。
- 旧日新館(県指定文化財)
旧制横手中学校のアメリカ人英語教師の住居として明治期に建てられた県内唯一の木造洋風住宅である。
- 本多上野介墓碑
徳川幕府創設の功臣本多上野介正純とその子正勝は謀反の疑いで横手に流され悲運の生涯を閉じた。
- 憩いの森
屋外レクリエーションの場として親しまれており、周囲には雪椿などが群生している。
- 横手城
横手公園のシンボリックな存在で、二の丸跡に三層の天守閣様式の展望台が建っており、内部は郷土資料館となっている。
- 石坂洋次郎文学記念館
文壇にその地位を築いた作家、石坂洋次郎が横手で教鞭をとっていた頃の資料を展示している。

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。

山と川のある町を眺めるみち



制作に当たり

- (1) このマップの散策道の細かい曲がり方は省略しており、従って等高線と不一致の箇所などがあります。
- (2) 距離の100m未満は四捨五入です。
- (3) この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行1/50,000地形図を使用したものです。(承認番号 平22東使・第4号)
- (4) 無断複写、複製、転載は禁じます。

監修 横手地域局産業建設課
制作発行者 小松田 正司
印刷所 株式会社 アイ・クリエイト
初版発行日 平成13年4月1日
改訂版発行日 平成19年9月1日
// 平成22年5月10日